

学級活動(2)(3) 指導案 (記入例)

令和〇年〇月〇日 () 第〇校時

〇〇小・中学校〇年〇組〇〇名

授業者 〇〇 〇〇

1 題材

- 「題材名」ではなく、「題材」と記述する。
- 年間指導計画をもとに題材を設定する。その題材がどの内容なのかを明記する。
例：「4年生になって」学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって…

2 題材について

(1) 児童・生徒の実態

- 児童・生徒の学級生活における実態や、学級活動における実態、これまでの学級での取り組み等について記述する。
- 評価規準を踏まえた、話し合い活動における課題や目指す方向等について記述する。

(2) 題材設定の理由

- 学習指導要領解説、特別活動編「学級活動」の内容を踏まえて、取り上げる題材の内容、今までに取り組んできたこととの関連、その題材を取り上げる意義、題材と児童との関係などについて記述する。

3 評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している	例：～図ろうとしている。 ～築こうとしている。
<input type="checkbox"/> 評価の観点とは、学習指導要領の特別活動の目標と自校の実態を踏まえて、各学校で設定する。その際、特別活動における資質・能力の視点（人間関係形成・社会参画・自己実現）をもとに重点化を図ることも考えられる。 <input type="checkbox"/> 「内容のまとめりごとの評価規準」は、特別活動の目標や各活動・学校行事の目標、各学校で設定した各活動・学校行事において育成を目指す資質・能力を踏まえて設定する。		

4 事前の活動

日時	児童・生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す児童・生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
〇月〇日 ()	<input type="checkbox"/> 日時（朝の会や帰りの会など）や各教科等との関連、活動形態（全員の活動や計画委員の活動など）について記述		
〇月〇日 ()	<input type="checkbox"/> 児童・生徒の立場で書く。	<input type="checkbox"/> 指導者の立場で書く。 準備物や具体的な手立てを書く。	<input type="checkbox"/> 事前・本時・事後の中で、どのように評価規準が位置付けられているかが分かるように書く。
〇月〇日 ()		<input type="checkbox"/> 児童・生徒が活動を行う上で、教師が何をどのように工夫したり、配慮したりするかなどを記述する。	
〇月〇日 ()			

5 本時のねらい

例：～することができる。

- 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ意思決定できるようにするための「指導のねらい」を端的に記述する。
- 本時の評価規準との整合を図る。

6 本時の展開

	児童・生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す児童・生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入		指導者の立場で書く。	
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> □「題材の提示」から「振り返り」までの活動内容について記述する。 □児童・生徒が題材を自己の課題として真剣に捉え、具体的な実践目標や方法などを意思決定できるように展開を工夫する。 □ねらいを達成するための指導や支援の手立てなどについて、教師が何をどのように工夫したり、配慮したりするか等、指導の流れに沿って具体的に記述する。 □評価の欄は、例えば、事前に【思考・判断・表現】を、本時は【知識・技能】【思考・判断・表現】を、事後で【主体的に取り組む態度】に重点を置くなども考えられる。 □児童・生徒が学習活動を行う上で、資料の活用や活動の場づくり、グループでの話し合い、ティーム・ティーチングの実施、ゲストティーチャーの活用、体験談を聞くなど、工夫をする点について指導者の立場で記述する。 		
展開			
さぐる		<ul style="list-style-type: none"> □話し合いの活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> □本時における目指す児童・生徒の姿と整合した評価規準を具体的に書く。
見つける		<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が主体的に学習を進めるための手だて ・児童・生徒が対話的に学習を進めるための手だて ・児童・生徒が学習を深めるための手だて ・児童・生徒一人一人の活動状況に応じた手だて <p>「～する児童・生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、具体的な指導・支援が分かるように書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎「十分満足できる活動の状況」と判断する児童の姿 例：～している。 □評価方法を具体的に書く。 〈評価方法の例〉 ・発言の内容 ・行動の観察 ・学級会ノート ・ワークシートの記述 等
終末			
決める		<ul style="list-style-type: none"> □話し合いの活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 	

□本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童・生徒の姿について、想定される児童・生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な児童・生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

7 事後の活動

日時	児童・生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す児童・生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 ()	□児童・生徒の 立場で書く。	□指導者の立場で書く。 準備物や具体的な手立てを 書く。	□事前・本時・事後 の中で、どのように 評価規準が位置付け られているか分かる ように書く。
○月○日 ()			

8 板書計画 (電子黒板・ICT等の併用も考えられる)

□児童・生徒の思考を可視化・操作化・構造化する。

◇以下、授業づくりの際に参考にしてください。◇

小学校	中学校
国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」 のための学習評価に関す る参考資料』令和2年3月 	国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」 のための学習評価に関す る参考資料』令和2年3月 